

同じ寮に住んでいるともだちと私

—変化—

グループA-3、朴智秀（パクジス）

1. 同じ寮に住んでいるともだちの紹介

私にとって大切なコミュニティは、ずっと家族であった。でも、今交換留学をしている私に新しいコミュニティができた。このコミュニティは韓国から親しい間で一緒に交換留学を来たともだちである。横の部屋に住んでいる。このコミュニティが大切な理由は、家族とあまり連絡できない今、わずかの依存症を持っている私に家族のような存在だからである。そして、家族もできなかつたこと。つまり、私を変化させてくれる助力者の役割もしている。「なぜ、家族ができないことをともだちができますか」と言われたのに、その理由は家族は、私の悪い習慣についてもうあきらめたし、主観的だからである。

このコミュニティの私の日課を言えば、朝から夜までずっとともだちの部屋でご飯を食べたり遊んだり宿題をしたりする。寝ることと浴びることだけ私の部屋でしている。それで、ある人が「ともだちがあなたの部屋で遊んだことがありますか」という質問について私は「友達が私の部屋で何かをしたことはありません。」と答えた。また、「食事準備を手伝ってくれますか」の質問について「私は料理ができませんから準備に役立たないと思います。だから、皿を洗うことをします。」と答えた。

このようなコミュニティのため、おもしろい出来事があった。自立がない日課を言われたほかの人に叱られたことやともだちも個人時間がなくなって疲れて部屋から追い出されたことなどがあった。その中、一番は日本にいる間に、電気代・ガス代が出たとき、いつも私の部屋より2倍以上出たことでした。お金はともだちが自分で計算してから私にお金をもらうという方法をしている。

いまさら、考え見たら私にだけよかったコミュニティだと考えられる。だから、私も自分の子供っぽい行動を直さなければならないと思いはじめた。それで、私は今より物心つくことと自立心をアップすることという変化のために努力している。いますぐ、完全に直すのは無理だから、まずともだちの部屋にいる時間を減らしている。また、ともだちも冷淡に助言したり追い出せたりするなどいろんな方法で手伝っている。

2. インタビュー相手

私のコミュニティのともだちは二人がいますが、この中で、ハンさんをインタビューしたい。私が一番お世話になっているからである。ハンさんは日本にいる私に精神的な助力者と言える。いつも、助言と忠告をしてくれるからである。ハンさんは私が誤ったことをしたり、悪いことしたりするとすぐ直させる。それでも、私が理解できなかった時には、わかりやすく説明してくれます。たまには、私がしたことがひどいと思われたら怒る時もある。

また、私が落ち込んだ時や幸せな時などにいつも横にいてくれる。毎日、ハンさんを怒らせる私ですが、許してくれるハンさんがありがたい。だから、バカのような私についてのハンさんの考えが知りたい。

3. インタビューの結果

一回（10分ぐらい）

恥ずかしかったが、ハンさんに直接にこのコミュニティをどのように思っているか聞いて

てみた。まず、最初にこのコミュニティができた時、どのような考えをしていたかという質問をした。私は日本という不慣れるところで頼れる人ができてうれしかったが、ハンさんはここでも、楽に生活するのはできないだろうと思ったらしい。なんだか、すまなかった。私自身もハンサンに邪魔になったと思ったからである。

次に、このコミュニティの一員の私の長所と短所を聞いてみた。ハンさんは短所から始めた。私の短所は、「極端的・気が小さい・野菜食べない・自立心がない・言葉の使い分けが下手だ」と言った。その部分は私も知っている部分だったから本当に直さなければならぬと反省した。そして、長所では、「インスタントラーメンを作るのがうまい・おもしろい・どんなにいやな話でもそれがただしと思ったらよく聞く・立ち直りがはやいということ」であった。例えば、叱られる時、ハンさんの話を聞いたら、なんだか私自身より私を知っていると思われた。

そして、このコミュニティが好きか嫌かについて聞いてみた。ハンさんは、この質問が一番変だと答えた。「嫌だと答えたらどうする」と言った。私はびっくりした。そこまで、考えがなかったからである。そうだ。嫌がられてもしょうがない状況である。でも、私はしつこく聞いてみた。「好きだったらどこか好きか、嫌だったらどこを改善したらいいか」と。そうしたら、ハンさんは80%好きだと言った。理由は、さびしくないからであった。嫌なところの20%について「礼儀は守ってほしい。私の部屋にいるのはいい。でも、寒いとして換気をしなくて悪い」と言った。その言葉を聞いて私は私と他の一員が料理した時、煙が出ているのをほうっておいたことが思い出した。ハンさんが何も言わなかったから分からなかった。また、私は迷惑をかけてしまったのだ。

このコミュニティは、長期的ではなく短期的なのでこれから3ヶ月も残っていないのについてどう思っているかという質問に「たぶん、帰るまでこのままのはずと私は思う。だから、今までよくやってきたように仲良く過ごしてほしい」と答えた。こんなに私のような邪魔者があるのにそのように答えてくれてやはりハンさんはやさしい人だと思った。

このコミュニティで一番記憶に残ったことは何という質問に「最近、あなたが泣いたこと」と答えた。それは、私はよく泣いたほうではないし、怒っても怒った理由を言わないし、私の責任でしてしまうタイプでしたからハンさんが私が怒っている理由を追い詰められてなんだか馬鹿のように泣いてしまったことである。とても恥ずかしかったが、そのときが今まで一番率直な話を話し合った時であった。

最後に、このコミュニティに言いたい話は何だと聞いてみた。ハンさんは「私は親しくなるほどすごくよくいじめるタイプだ。私の話の中で9割は冗談だから心にとめておかないでほしい」と言った。たぶん、私がよくすねるからそのような言葉をするようだと思う。

このようなインタビューを通じてハンさんがコミュニティと私についてどのような考えを持っているか分かることができたきっかけになってよかった。また、邪魔者の私がこれから何を直せばいいかも分かることができて私のせいでコミュニティが悪い方向に向かわないように気をつけると決心した。

二回（5分ぐらい、朝8時、起きたばかりの二人）

私がこのコミュニティのいいところとわるいところについて質問した。ハンサンはあくびしてから悩んだ後「いいところは、さびしくないというくらいかな」といった。そしてわ

るいところには「手間がたくさんかかるということ？」と言いながら笑った。次に、記憶に残ったエピソードについて質問した。そうしたら前と同じ答えが出た。「たくさんあるけど、あんたが泣いたことしか覚えてない。ハハ」と。恥ずかしいけど、私もそのエピソードが一番記憶に残った。そして、これから1ヶ月残ったのに、どうやって過ごしたらいいかという質問にやはりあくびして悩んだ後「今まで過ごしてきたとおり、そのままよく過ごしてほしいね。ただ、手間がかかることが減ったらいいねと考えるくらい？ハハ」と言った。その答えで私が今までハンさんにどんなに迷惑かけたのか分かった。最初、このコミュニティに入るときの考えが気になって聞いた。ハンさんは「このコミュニティに入るときが秋田に来たときだよ。どのぐらいときめきがあったよ。また、漠然とよく過ごせるかと考えた。」と悩んだ後言った。私は、他の人に迷惑をかけなかったらと考えたことと違ってやはり私が子供っぽいということを改めて感じた。次の質問は私の印象が最初のインタビュー時と変わったかに対して聞いた。ハンさんは「あいかわらず、子供っぽい。ハハ。ま、でも、今も子供っぽいけど努力している様子が見えるよ。」と言いながら笑った。私が少しでも努力しているのを分かってくれて嬉しかった。コミュニティの関係を切る心があったのか、それでも我慢してしてくれた理由の質問に「面倒くさい点もあったし、休みに来たのに私が何かをずっとしなきゃならないのが嫌だった。えっとね、とてもよくぶつかるから疲れた。たまに。でも、逆も同じだと思ったからね。あんたたちも同様だよ。みんなが我慢しているのから我慢して過ごしているよね。私一人だけで何かをされたことじゃないから。みんな平等な関係でしょう。私一人、何か、とにかく、何と言ったらいいの。一人だけで不利するよりみんな同じだからね。」とまじめに答えた。ハンさんとよくぶつかる人が私だからすまなかった。でも、大人らしく考えるハンさんを見てすごいと思った。最後にこの間、このコミュニティについての全般的な考え・感想を聞いた。ハンさんは「あんた本当に単刀直入だね。ハハ。えっと、対人関係はすべてそうだが、人と付き合うことはとても大変だね。人との関係は難しいみたい。でも、一様、ここでお互い頼れる雄一なコミュニティだから、、、終わり。後は自分で想像してね。ハハ」とときこちなく笑いながら言った。私も頼れるコミュニティという答えと同じである。でも、私だけ頼れるところだと思ったのにハンさんもそのように思っていて驚いた。とにかく私はこのコミュニティがもう終わるのにさびしい心を見た。しかし、やはり大人らしいハンさんは私ほどさびしくないらしい。ハンさんが「私はすべてが過ぎたら過ぎたとおりで」と言った。子供っぽい私と大人らしいハンさんの考えは違うから話し合いながら新しい考えを聞くことができ面白かった。また、前と同じような質問と新しい質問をすることを比較しながら考えることができよかった。さらに、ハンさんもこのコミュニティにいろんな考えをしたことが分かった。

4. 同じ寮に住んでいるともだちと私

私も私が自立もないところと子供っぽいところを知っている。また、それらをなおさなければならぬことも知っている。そうでなければ、後で社会生活をするとき、大きい障害物になるはずだからである。しかし、今までは家族がずっとそばにいたから知っているとはいえ、あまりなおす必要はなかった。ところが、今、一人で外国にいるからその必要を感じた。でも、意志が弱くて進まなかった。そのとき、私を変化させてくれる存在がともだちであった。そのおかげで私も自分の少しの変化をみて驚いた。友達は、とてもあり

がたい存在であった。それで、その存在があるこのコミュニティがとても大切である。でも、韓国に帰ったらこのコミュニティは終わりである。ともだちは韓国でも会えるが、このコミュニティでの生活は終わり。とてもなつかしいと思われる。しかし、友達はその思わない。考えは一人によって違うはずだが、その答えが私にはすこしほろ苦かった。でも、友達は最後まで、今のように仲良く楽しく生きたいと思う。私も同じ考えである。今、子供ぽくくことをしているのに、それは私がすこしの変化を見えたらハナマルはんこをもらうことである。つまり、友達が気に入られるほど優しいことをしなければならぬのだ。しかし、悪いことをしたらもらったことで一つ除去。もらうことが大変だが、10個をもらったなら賞がある。友達が考え出した私を変化させるいい方法であったのである。動機付けがあると思ったからである。友達の考え通り、私はそれをためにもっと頑張っている。で、残った期間にぜひ10個をもらうはずである。ハッピーエンドをみるために、がんばりながら生きたい。

5. クラスについての感想（改善を希望する点）

レポートを書き直しすことを何回して自分の考えについてもっと考えさせる授業であって始めには嫌であった。面倒くさいし、他の人に自分の話を全部する必要はないと思ったからである。しかし、今の考えは少し変わった。他の人と話しながら、レポートの内容について助言を得てそれを通じてもっとテーマに考えることができよかつた。人生を生きてきながら、ほとんど自分の周りの人について深く考えたことがなかつたからである。新しい経験をして面白かつた。でも、授業の方法にはすこし問題があると思う。多くひとと全部話すことができないから、一人あたりに時間を決めて話し合つたらいいと思う。それなら、深く話し合うことができないが一人抜きなく話し合うことができる。また、散歩をするのはよくないと思う。面倒くさいし、ぎごちなくて話すこともすくないからである。それとも、遊ぶ感覚になる。さらに、なんだかその人に失礼なことをしているのではないかと考える。それで、私は授業でレポートをあらかじめもらつて読んで学校に来てそれについて話したほうがいいと思う。散歩や散歩の話を紙で書くことなどは時間無駄遣いと思われるし、今、授業で何をしているかよくわからないからである。